

令和4年12月 市長定例記者会見

令和4年11月21日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年12月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

会見の進行につきましては、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。事業発表に係る質疑応答終了の後にフリーの質疑応答とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、ご質問の際は、挙手の上、所属名をお願いします。発言の際はマイクのスイッチをお願いいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 12月定例記者会見です。よろしくお願いいたします。

まず最初に、17、18日に地域共生社会全国推進サミットを開催させていただきました。たくさんの方においでいただきまして、成功裏のうちに終わったと考えております。この敦賀から地域共生社会についての提案ということで、全国に持ち帰っていただきまして、また次につながっていけばと思っております。

次に、要望活動でございます。国交省に対しまして要望活動を行っております。道路関係では、国道8号バイパスの建設促進を岩倉南越前町長とともに要望しております。第2環状道路につきましても、ピースの前のアンダーパスを重点的に整備促進として福井県と合同で要望しております。そのほかにも白木の堤防の改修工事などの要望も進めさせていただいているところです。

それから、本日は12月議会の告示日でもありますので、予算の議案上程をさせていただきました。しっかりと議会に承認していただけるようにやっていきたいと思っております。

それから、私ごとではございますが、次の選挙につきましては不出馬で、ここで終わろうと思っております。まだ今日で辞めるわけじゃなくて5か月ほどあります。この2年8か月のうちにいろんなことが前に進んでいったのではないかなと思っております。

その中で、新幹線まで1年ほどありますけれども、次の4年を考えたときに、新幹線までの1年と次の3年を合わせて計画して手がける人、また、その次の大阪・関西万博がありますので、そういう流れを考える一つの節目ではないかなと感じまして、ここで、2期で終わろうと思っております。

もう一つの理由としますと、9月議会でお知らせいただきました子育て支援についての事業があり、議会で否決されました。ふるさと納税を含めて財政的にはかなり充実してきたと思っておりますが、その中でも否決されるのかということのを重く受け止めました。

まだ5か月ほどありますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 本日の事業発表は2つございます。

一つは令和4年度12月補正予算案の概要について、もう一つはつるが観光物産交流フェ

アの開催についてでございます。

1つ目の12月補正予算案の概要につきましては、国の補正予算に合わせた追加の経済対策事業など9月補正以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、国の経済対策に伴い、小中学校の給排水設備工事や体育館照明のLED化、道路改良事業や下水道事業の雨水管渠呉羽幹線の整備費等に係る予算を前倒しで計上いたしました。

また、引き続き電子クーポン「つるが割」を発行することにより、消費者及び中小企業者等を支援する経費を計上いたしました。

そのほか補正予算の主な事業としまして、総務費では、ふるさと納税の寄附見込み額増額に伴う返礼品の送付等に係る経費を計上いたしました。

商工費では、ウクライナ避難民受け入れを行っているポーランド共和国への支援のため、人道支援金を計上いたしました。

また、北陸新幹線敦賀開業に向け、新幹線誘客キャッチコピー「つるが、発見！」について、一般公募によりロゴマークを策定する経費を計上いたしました。

教育費では、角鹿小中学校のサブグラウンド等の整備に係る工事費を計上いたしました。

災害復旧費では、8月の大雨災害復旧に係る林業施設の工事費を追加計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

続きまして、つるが観光物産交流フェアの開催についてでございます。

2024年春の北陸新幹線敦賀開業に向け、さいたま市にありますイオンモール与野店にて、つるが観光物産交流フェアと題し、新幹線敦賀開業まちづくり推進会議として、地元観光資源や食、土産物などをPRいたします。

主な事業として、物産品販売では、市内6事業者等による催事ブース出展があり、敦賀真鯛や敦賀ふぐなどを扱った海産物が並びます。私も初日、23日は現地に赴きまして、イオンモール側に地元産品のトップセールスを行うほか、開催記念セレモニーにおいて来場の皆様に直接PRを行う予定です。

今回、会場をイオンモール与野店とした理由としましては、新幹線開業による時間的短縮効果が高く、かつ本市海産物の訴求効果が見込める海のないエリアとして、北陸新幹線沿線の一つであります大宮駅付近の店舗を選ばせていただきました。

北陸新幹線敦賀開業に向け、関東地域における敦賀の認知度向上に努めてまいります。

発表は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 2点、補正予算の関係で伺いたいんですけれども、1点目、北陸新幹線敦賀開業に向けたキャッチコピー「つるが、発見！」について、ロゴマーク策定ということですが、市長としてどういったロゴマークが好ましいとか、どういったものであればうれしいといったような思いはありますかでしょうか。

【市長】 「つるが、発見！」というのは非常に使いやすいキャッチコピーだと思います。例えばポスターやバッグなど、いろいろなものに使えるようなロゴマークになったらいいなと思っています。色も一つじゃなくて、バリエーションで提案していただけると非常にうれしいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

もう1点ですけれども、災害復旧費の関連で、8月の大雨災害復旧に係る林業施設の工事費ということですが、具体的にどういったところに工事を投入するのか、お話しできる部分があれば。

【市長】 後で部長が答えると思いますけれども、災害が起きまして、すぐ対策できる小規模な工事のほかに、大きな工事や国の支援をいただきながらやらなくてはいけない工事がありますので、そういうところの工事の追加ということになろうかと思います。

部長が詳細をお答えします。

【産業経済部長】 林道は、8月の大雨で相当傷みました。敦賀市内の7路線に関しまして国と協議をしているところで、検査も含めて予算を今回上げさせていただいたということでございます。

【記者】 幹事社からは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 2点あります。

1点は、ふるさと納税で、今年も寄附見込み額が増加の見込みということですが、現時点で、今年敦賀市のふるさと納税額が幾らなのかというのが1点。

もう1点が、ポーランドへの避難民受け入れのための人道支援金を500万円、今回2回目だと思うんですが、こちら今回新たに計上した理由について教えてください。

【市長】 ふるさと納税については、担当のほうからお答えします。

ポーランドにつきましては、ウクライナのロシアとの紛争が長引いております。冬場の対応というのを非常に困っていらっしゃるということをお聞きしましたので、もう一回、同じような支援をするべきだろうということで計上させていただきました。

【企画政策部長】 ふるさと納税の現状ということでございますけれども、10月末時点で17億9959万1000円です。

今回の補正につきましては、9月末時点で1.1倍でしたので、昨年度の額に1.1倍させていただきまして85億と見込ませていただいて予算計上させていただいております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へに行きたいと思っております。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 冒頭の発言でもおっしゃっていましたが、ご自身の進退についてお伺いします。残り任期まで5か月ありますけれども、この5か月で何かやりたいこと、成し遂げたいことなどありますでしょうか。

【市長】 先程言いましたように国交省に要望したり水産庁に要望しております。それが少し形になるかなというところはありますので、3月末までに形にしていきたいと思っております。

【記者】 分かりました。

もう1点、次の市長が決まれば、どういった形で敦賀市を運営していただいたいのかという思いはありますか。

【市長】 例えば市役所の都合とか自分たちの都合ではなくて、いかに敦賀市を発展させるためにどうしたらいいか、市民の皆さんのためにどうやったら喜んでいただけるかなど。ただ単純にお金をばらまいて喜んでいただけるのではなく、ああよかったねと後から思えるような政策をいろいろと打っていただけるような方がなっていたらうれしいと思います。

あと、先程言いましたように1年と4か月後には開業と、その後3年間というのがありますので、そういう大きく変わるときに大きな展望を持っている方。私、8年間市政を見てきて、私が見えるものというものはある程度したと思います。また違う目線で違う視点から見ていただいて、大きく羽ばたかせていただけるような人がなっていたらうれしいと思います。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 同じく市長選のお話で、冒頭の発言にあった内容のことでお伺いします。

ちょうどこのタイミングが節目だというようなことをおっしゃってましたけれども、一つの見方として、開業してからも節目になるのかなと思うんです。この開業する前を節目と捉えたというのは、改めてなぜか教えてください。

【市長】 実際にいろんな施策を打って事業化していくのに見えてくるのはそのタイミングになります。それに対する仕込みといいますか、準備しているものがあります。ですから、今から当然頑張って実行していかなくてはいけません、新幹線の開業までの準備は大体できそうなところまで来たなと感じています。

そうすると、次の年というのは新幹線開業の次を考えてやらなくてはいけないと思いますので、そういう意味ではちょうど節目になるんじゃないかなと。仕込みをしていく段取りとすると、そういうタイミングが一番いいのかなと感じています。

【記者】 まだ数か月、5か月ほどありますけれども、ここまでやってきた中で仕込んだものの中でも、ご自身の中で、これは一つ成果になった、または今後につながるだろうと思った事業だったりやられたことというのは、ありましたら教えてください。

【市長】 今からのものですか。

【記者】 これまでやってきたもの、成果を上げた、出来上がったものの中で、それが実りそうだと思うものだったりとか、新幹線開業に向けて何を開業前の市長としてできたのか。今のところで感じている分がありましたら教えてください。

【市長】 新幹線の開業についていろいろやってきた中でいいますと、一つは、駅の西側にいかに人を出してくるか。そういう意味で、乗換えの利便性等も含めまして、ムービングウォークをずっとつくってほしいということを要望した結果できましたので、それは一つの成果だと思います。駅の東側についてもエレベーターだけでなくエスカレーターも設置できるようになりました。ですから、今は見えていませんけれども、そういう部分は一つの仕掛けとしてももうすぐ形になるものかと。

コンコースのところでは、デジタルサイネージ、2.7mの10m幅のものができますので、そういうものも開業したときには御覧になっていただけるのかなと思います。

よろしいでしょうか。

【記者】 私も市長選について2つお伺いします。

まず、いつ決断されたのかという点が1つ。

2つ目は、後継指名はなされますか。

【市長】 いつということになりますと、9月の議会以降いろいろと考えておりまして、決断させていただきました。

後継指名につきましては、今、私が辞めると言った段階ですので、皆さん、それからどうされるか考えられると思います。その中で今の路線を引き継いでいただけたら、また将来展望に向けての豊かな感受性や発想を持っている方がいらっしゃったら、その方に託したいなというのはあります。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 私からも市長選について2点なのですが、まず最初、確認なんですけれども、先ほど新幹線開業に向けた準備のところで駅西地区のこともおっしゃっていましたが、その中にオルパークというか、ちえなみきというか、駅西エリアの開発ももちろん含まれるということでもいいんですよね。

【市長】 そうですね。出来上がったものの中にはその部分がありますので、それは非常にうまくいっているの、よかったなと思っています。

【記者】 その上でなんですけれども、先ほどは新幹線開業に向けた仕込みであったりそういうものを振り返ってという質問だったんですが、2期8年、まだ5か月ほど残っています、この2期を振り返って、今まで自分の中で、これはうまくできたなですか、そういう実感を伴う事業についてご紹介いただけるとありがたいです。

【市長】 ありがとうございます。

たくさんいろんなことができたなと思って振り返ってましたけれども、一番印象的だったのは、平成28年12月のもんじゅの廃止措置ですね。廃止措置が急に決まりましたので、その後、1000人の雇用とかいろいろ国にも要望させていただきましたが、立地が利権でお金を要望しているみたいなどころにならないように国との交渉をさせていただいたと思っています。そういう意味では、きちんとした交渉ができたんじゃないかなと思っていますし、一番忘れられない出来事だと思います。

もう一つ、うまくいったなと思っていますのは、先日着工していただきました東浦の8号防災工事です。期成同盟会をつくりまして、平成30年度で事業化していただきました。非常に早いペースでしていただいたと思っています。

全国的にも必要な場所だったんでしょうけれども、動き出してすぐに形になったという意味では、非常にうまくいったというか思い出深い場所だと思います。

【記者】 私も市長選についてお伺いします。

市長、7月、8月に市政報告会を市内各地でやったときのお話を聞いていると、3期目があるのかなというような印象で聞いていたんですけれども、それが立候補を表明しないということになったというのは、やはり9月議会の予算の否決が一番大きな理由なんでしょうか。

【市長】 大きな理由の一つではあるかと思っています。

【記者】 ご自身のまだやりたかったことみたいなものというのは残されてはいないんで

すか。

【市長】 今やっていることがたくさんありますので、それを終わって見届けたいという気持ちはありますけれども、それは職員が頑張っていきますし、そういう意味ではいいのかなと思っています。

先程言いましたように、新幹線開業前1年というところが一つの区切りとして、次のことを考えていく上でも考えを変えらるるかターニングポイントになると思います。次、頑張らって4年延ばしたとすると、今後は、大阪・関西万博についてそして、その後ということをお考えなくてはならないと思いますので、いつまでたっても辞められないみたいな世界に入っていくのかなということも少し感じます。

【記者】 昔の記事とかを読んでみると、もともと2期というような発言をされていたような記事もあったように記憶しているんですけども、そういうことが関係しているんですか。

【市長】 それとは関係していません。2期8年と言ったときに落ちましたので、それは市民の皆さんに否決されましたので、その話はそれ以降、一切言ったことはありません。

【記者】 最後1点だけ。

先ほど後継指名はされない、擁立はされないということだったんですけども、最後、こういう人に次の市政を担ってほしいなというのが具体的にあれば教えてください。

【市長】 先程申し上げたとおりなんですけれども、後継指名は辞めると言ったところなので考えておりません。適当な方がいたら応援したいと思ひますし、応援するかどうかはまだ今は分かりません。

大きく変わるときですし、私と違つた視線で見ていただいて、いろいろなアイデアや、いろいろな可能性を考へて、市民の皆さんのために、また市政の発展のために頑張れる人がいらつしゃたらいいなと思っています。

【記者】 市長に伺ひますが、冒頭で、子育て支援事業の否決があり、それで重く受け止めたということだったんですが、もう少し詳しく、どこをどういふふうなことだったので重く受け止めたということなんですか。

【市長】 敦賀市だけでなく、全国的に日本の場合、人口減少対策というのは非常に重要なものだと思っています。その中で、例えば子どもを産み育てなくてはならないという言葉自体はなかなか言えないフレーズだと思います。でも、子どもを産むことに対しては、楽しいことなんだとか、自分の人生の中ですごく大事なことなんだということを感じていただけるような仕掛けをしていきたいと思ひます。例えば保育料を無償化したり給食を無償化したりしても、それは今の世代の人たちの感覚でいうと、子育てに取られる時間とかキャリアなどマイナスのイメージの補填でしかないようなイメージじゃないかなと。そうじゃなくて、本当に楽しいねという後押しができるような子育てということが実現できないかなということで提案させていただいたんです。今回、国でもそういうのが出ています。国に行つてもそういう話をおある程度してきて、官僚の方々もそれはいい話なんだけれどもなかなか国レベルでは予算が組めないというような話も出たりしていたので、自信を持って出したつもりなんですけど、否決されましたので、すごく悔しい残念な思いをしました。

【記者】 その案が否決されなければ、こういう不出馬ということには至らなかつたということですか。

【市長】 いや、そこは何とも。今この状態ですから何とも言えませんが、原因の一つではあります。

【記者】 まず1点、確認なんですけれども、新幹線のことを考えたタイミングですけれども、先ほどのお話を伺っている限りは、開業前のことに関しては十分これまで時間をかけて成し遂げてきたと。仕込みもしてきたと。

これからは開業後のことを考えるので、そこが一つのタイミング、区切りという意味に聞こえたんですけれども、そういった意味合いでよろしいでしょうか。

【市長】 大体それでいいです。ただ、今何もしなくていいというわけではなくて、当然、開業に向けてこの1年4か月、やらなくてはいけないことはたくさんあります。やることは大体決まってきたということですね。ですから各市町の魅力をアップさせて広域観光に結びつけていくというところのフェーズになろうかと思えます。そういうところは大体見えてきましたので、じゃ開業した後どうするんだというところは次の頭で考えなくてはいけません。そういう仕掛けを次はしなくてはいけません。

【記者】 それから、先程の質問に関連してなんですが、やはり9月議会のことが大きかったというのは今日の口ぶりからも推察できると思いますが、否決というか組み替えになった大きな理由はマイナポイント、マイナンバーカードの取得が条件だったということだと思んですが、改めて子育て支援に関して、それだけ思い入れがあった中で、マイナンバーにこだわらなければ何とかなったんじゃないかなという気がするんですが、その点どうですか。

【市長】 そこはいろいろともんだ結果なんですけれども、現金でお渡しするというのも一つの方法ですが、現金で渡した場合に所得に反映されるんです。今の税制ですと。そうすると例えば1年間60万円お渡しした場合に、保育料が有料化したりとか、子育て支援のお金があたらなくなったりなど、税金が上がったりとかそういうことになります。そのお金が全てお手元に行くわけではない。何とかそれが手元に残るような仕掛けというのができないかということで、いろいろすったもんだして考えた結果です。

【記者】 数々メリットがあるというのは分かるんですが、一方で、どうしてもマイナンバーカードをつくることに抵抗のある方が支援を受けられなくなってしまふ。そこはもちろん考慮されたと思うんですが、その点はどう整理されたのでしょうか。

【市長】 マイナンバーカードを受けたくない人はいらっしゃるかもしれませんが、マイナンバーカード、基本的には取得しましょうとやっています。マイナポイントもつけてやっているわけです。国の政策としてもやっているわけです。特にそこで反発が出るということは予想していませんでした。

だから、議員さんが反発する理由がよく分かりません、いまだに。

【記者】 しかし制度は任意であって、つくりたい人だけがつくればよいというふうな法律の立てつけになっているので、ちょっとそのご説明は無理があるように思うんですが。

【市長】 そこは意見が分かれるところなので。

【記者】 冒頭のところで一つの節目を迎えたということですが、新幹線、駅西地区はもちろんだと思うんですが、ムゼウム、あと市役所の新庁舎の移転といったのも、ほぼこれが完了して、それもやはりそこで一つの節目だと捉えたということでしょうか。

【市長】 そうですね。節目というのが選挙が4年に1回というのを考えたときに、この

タイミングがいいと感じたんです。

いろんなことが課題としてありました。最初は笙の川の来迎寺橋をどうするんだから始まりまして、岡山松陵線というアトムボーイから金山のヨーロッパ軒までの道路の、あそこは都市計画ができて40年ほったらかしとか、そういうところから始まっているいろいろさせていただきました。角鹿小中学校も3年後には建て替えなくてはいけないのにどうするんだみたいなのもありましたが、建て替えることができました。庁舎につきましては、熊本の地震以降からの課題になりましたけれども、それにつきましてももうすぐ外構工事も終わりますので、一段落したなという気持ちは私の中ではあるんです。

ムゼウムにつきましては、今回アメリカに行かせていただきましたが、3年前に行ったときには、私たち敦賀のことは知っている。知っているというのは、名前として知っているという話でした。東京と敦賀は知っているんだみたいなリップサービスもいただいたんですが、今回行きましたら、敦賀は自分らの仲間だよみたいな、すごくアットホームな歓迎の仕方をしていただきました。総領事館に70名ほど来られましたが、敦賀は自分らの親戚だよみたいなイメージで、もうすぐ行くからねと、コロナが終わったから行くよみたいな、そういう方たちもたくさんいらっしやったのです。ムゼウムに対する評価は非常に高くなったし、ある程度の確立ができたんじゃないかと思います。

【記者】 先程までに、いろんな成果のことを挙げられましたけれども、特に直近のことで言いますと、ふるさと納税が今回も85億円を見込むぐらい。原発が止まって、どこに収入をとるという中で、一つの大きなものを確立されたと思いますが、そのことについてどのようにお考えなのかということと、新幹線でいえば、特にちえなみきを中心にすごく評判もよく、先だつてのまちづくり推進会議では奥井会長が敦賀は変わったと言われていてうれしいんだということを冒頭の挨拶にもされていたので、この2つの特に成果について、どのようなお考えですか。

【市長】 財政的な部分としまして、原子力が止まっている、また三法交付金、原子力特会がなくなったということで非常に苦しく、市長になったときに、毎年3億円ずつお金が減っていくんです。財政調整基金は10年後なくなります。どうしようと言われていたので、ちょっとびっくりしました。その中で、いかに節約をしていくかということも最初考えましたが、ふるさと納税で何とかできないかということも思いまして、担当が頑張ってくれて本当に物になったので喜んでおります。もう一つ、財政的によくなったのは、今までは原子力の三法交付金などを取りにいて補助金をもらっていたんですけれども、他市町を見ましたら、そこだけではなくて、国土交通省とか厚生労働省とか、国土交通省でも観光庁とか、そういうところにもたくさん補助金をもらいに行かれていますので、同じようなことをすれば同じように入ってくるということで、そういうふう切り替えさせていただきました。

ですから今回も補正予算に出ていますが、呉羽幹線という水路の工事をしますけれども、あれについては防災、国土強靱化の予算の中で半分のお金を国から出していただける。そうすると単独でやらなくても半分のお金で済むというようなことを繰り返しやることで財政的に潤うようにという仕掛けをしましたので、そういうことは少し形になったと思っています。

o t t aにつきましては、間に入ってくれたコンサルタントにプレゼンをしていただい



たり、いろんな会社を選んでやってくれたんですけれども、担当と受けてくれた事業者さんの努力だと思います。何回も何回も市民の皆さんと協議をしてやっていこうというところ。私がうるさく言わなかったのが一番よかったんじゃないかなと思います。それで自由な発想で自由に楽しめる場所というのが上手にできたんじゃないかなと思います。

市の職員の皆さんは、私が市長になったときは、ちょっとのことをお願いしてもなかなか自分の仕事以外はしたくないみたいな雰囲気がありましたけれども、今は自由に皆さん頑張っている部分がたくさんありますので、それをちゃんと見ていて褒めてあげる。また困ったときにはフォローしてあげる。それが一番大事なのかなと感じております。

でも、それもそろそろ十分頑張れるようになったんじゃないかと思っています。

【記者】 追加で1点お伺いしたいんですけれども、4月に任期満了してからの後、その後の身の振り方について、今どのようにお考えですか。

【市長】 さっき、いつ決めたんですかという話もそうですけれども、次のことは何も考えておりません。

聞かれたら、畑とか田んぼをしますと言っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして市長記者会見を終了いたします。本日はありがとうございました。

午後 2時 10分 終了